NEWS RELEASE

千葉興業銀行

2024年10月11日

温室効果ガス（GHG）排出量の第三者検証を実施

株式会社千葉興業銀行（頭取 梅田 仁司）は、2023年度の温室効果ガス（以下、GHG）排出量データに関する信頼性を確保するため、一般財団法人日本品質保証機構（理事長 石井 裕晶）による第三者検証を実施しましたのでお知らせいたします。

当行は、2022年９月にTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に賛同表明し、気候変動に対する取組み等、開示内容の拡充に努めております。今回第三者検証を実施した2023年度のGHG排出量では、投融資による排出量（ファイナンスド・エミッション：Scope３のカテゴリ15に該当）についても算定を実施しており、算定結果はお取引先さまとの対話（エンゲージメント）に活用してまいります。

当行では、引き続き算定データの信頼性向上に努めるとともに、今後とも地域の経済・産業・社会の持続的な発展・繁栄に貢献してまいります。

※温室効果ガス排出量検証報告書については別紙をご覧ください。

記

１．検証対象期間
2023年４月１日～2024年３月31日

２．GHG排出量の検証対象範囲
Scope１：千葉興業銀行および連結対象子会社
Scope２：千葉興業銀行および連結対象子会社（マーケット基準、ロケーション基準）
Scope３：千葉興業銀行および連結対象子会社（カテゴリ３）
千葉興業銀行単体（カテゴリ１、２、４、５、６、７、12、15）

以上

当行は、SDGsの普及啓発・推進のため、当行イメージキャラクター ちばコーギーを使用した「CHIBA CORGI × SDGs」ロゴマークを作成いたしました。
ちばコーギーが抱える17色のハートは、SDGsの17のゴールを表現しております。
サステナビリティの取組みを通して、SDGsの目標達成に貢献してまいります。

JQA

発行日：2024 年 10 月 8 日
第 1811004900 号

温室効果ガス排出量検証報告書

株式会社千葉興業銀行　御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構（以下、「当機構」という。）は、株式会社千葉興業銀行が作成した 2023 年度の温室効果ガス（GHG）排出量の算定報告書（以下、「算定報告書」という。）が、同社により作成された「温室効果ガス排出量　算定要領」（以下、「算定ルール」という。）に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2023 年度とは、2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の期間をいう。

検証の目的は、算定報告書を客観的に評価し、同社の温室効果ガス排出量の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、「ISO14064-3」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は Scope1、2 の温室効果ガス排出量（エネルギー起源 CO_2）、Scope3 の温室効果ガス排出量 15 カテゴリ（カテゴリ 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15）とした。保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は検証対象の総排出量における 5%とした。また、本検証業務の対象組織範囲は、Scope1、2 および Scope3 カテゴリ 3 においては千葉興業銀行グループの国内 81 拠点、店外 ATM95 台とし、Scope3（カテゴリ 3 以外）においては株式会社千葉興業銀行単体とした。

検証では、現地検証に先立って、算定ルール等の確認のために統括検証を実施した。その後サンプリングにより、3 拠点にて現地検証を実施した。現地検証では、Scope1、2 の検証手続きにおいて、各拠点における算定対象範囲、排出源、モニタリングポイントおよび算定・集計体制の確認、活動量および排出量データについては根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした拠点の決定は株式会社千葉興業銀行が実施した。Scope3 に関する検証では、算定対象範囲、算定シナリオとアロケーションの確認、算定・集計体制の確認、排出量データについては根拠資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした、算定報告書の温室効果ガス排出量において、算定ルールに準拠せず正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

算定報告書の作成責任は株式会社千葉興業銀行にあり、温室効果ガス排出量の検証の結論に関する責任は当機構にある。株式会社千葉興業銀行と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地

一般財団法人日本品質保証機構

理事　浅田　純男